

Subjective and objective assessment of sleep behaviors of Japanese mothers and their 5- to 7-month-old infants

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2022-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065143

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.




博士論文審査結果報告書

学籍番号 1429022024

氏 名 山田 裕子

論文審査員

主 査 (教授) 塚崎 恵子 (教授) 副 査 (教授) 表 志津子 (教授) 副 査 (教授) 田淵 紀子 (教授) 

論文題名 Subjective and objective assessment of sleep behaviors of Japanese mothers and their 5- to 7-month-old infants (母親とその 5-7 か月児の睡眠行動の主観的および客観的評価)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、日本人の母親と生後 5-7 か月児の睡眠行動を主観的・客観的に評価することである。対象は母親とその 5-7 か月児で、自治体の母子保健事業会場で募集した。測定項目は、母親の主観的評価は、関西学院眠気尺度 (KSS)、Pittsburgh Sleep Quality Index (PSQI-J) を用い、母親と児の客観的評価は加速度計 Lifecorder GS を用いた。母と児の加速度計はいずれも着衣の腰部に装着した。KSS と Lifecorder GS は連続した 7 日間毎日、PSQI-J は期間中 1 回測定した。本研究は、金沢大学医学倫理審査委員会 (承認番号: 541-1, 629-1) の承認を得て実施した。

母親とその 5-7 か月児 36 組を対象に、母親と児を一組と捉えて同一期間、睡眠行動の評価を行った。母親の PSQI-J の睡眠効率、PSQI-J 6 点未満は 90.2% で、6 点以上の 81.0% より有意に高かった ($p < 0.05$)。32 名の母親が PSQI-J の質問項目の眠れない理由として「その他」を選択し、夜間の乳児への世話により眠れないことを述べた。

母親の睡眠効率は、PSQI-J より Lifecorder GS が有意に低く、睡眠時間は PSQI-J より Lifecorder GS が有意に短かった。睡眠効率は、主観的評価と客観的評価の間に有意差があった ($p < 0.01$)。母児の睡眠時間の間には、相関係数 0.44 で有意な相関 ($p < 0.01$) があった。睡眠中の覚醒には、母親の覚醒が先行するタイプと児の覚醒が先行するタイプの両タイプがあり、睡眠と覚醒は母子間で双方向性であった。母親に睡眠の主観的評価と客観的評価の違いを視覚的な情報を用いて説明することにより、睡眠の質・量ともに改善することが期待される。

【審査結果の要旨】

本研究は生後 5-7 か月児の母親と児の睡眠の実態と課題を明らかにした。この時期の母親の睡眠行動について、主観的データと客観的データの両方を用いて評価した研究はこれまでになく、睡眠教育の内容を検討するための基礎資料となりうる研究である。

質疑応答では、対象の選定、Lifecorder GS の装着方法と測定結果の信頼性、分析に用いた変数、結果に基づく考察の妥当性等について質疑があり、いずれも適切に回答した。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。